

学校関係者向け広報活動

－東京都小学校社会科研究会による東京港体験乗船・東京国際コンテナターミナル見学等－

当協会は、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。特に教師・児童など学校関係者向けには、海運関連施設の見学会をはじめとした積極的かつ地道な活動を、関連団体等とも連携し実施しております。

今般、7月26日（木）に、石油連盟と共催で、東京都港湾局・宇徳・日本船長協会等の協力を得て、東京都小学校社会科研究会を対象とした見学会を実施し、約40名の小学校教師が参加しました。

当日は、まず竹芝桟橋より視察船「新東京丸」に乗船し、海側から航行中・荷役中の商船等を間近にしながら東京港内を見学しました。船上では、東京港の役割や特色等の説明に加えて、日本船長協会 鐘ヶ江船長より荷役中の商船や海運に関する説明があり、東京港や海運の役割について理解を深めました。

その後、東京国際コンテナターミナルでは、同施設ビル屋上にて、同ターミナルが首都圏の生産・消費活動を支える玄関口として機能していること等の説明を受けながら、コンテナが運び込まれる様子を目の当たりにすることができました。参加者からは、「コンテナ荷役の作業場はどれぐらいの高さなのか」「どのようなものがコンテナによって運ばれているのか」等多くの質問がありました。

最後に、富士石油袖ヶ浦製油所を見学し、海外から輸入され同施設で精製される原油は海上輸送されていること等の説明があったほか、施設内に停泊しているタンカーをバスから見るすることができました。

参加した先生方からは、「今回の見学会を通して、改めて日本が資源の少ない島国であることに気づかされた」「貿易量の99%以上を担う海運によって日本が支えられていることは、知っておかなければならない社会的事実だ」などのコメントが寄せられました。

見学会を通じて、先生方に「海運の重要性」について理解いただき、授業で児童が考え・学ぶことの一助となることを期待するとともに、今後も積極的に学校関係者向けの広報活動に取り組んでまいります。

